

して全身残留率曲線を描きこれについて検討した。対象は $^{131}\text{I}$ 甲状腺摂取率測定患者および甲状腺機能亢進症 $^{131}\text{I}$ 治療患者である。

結果：1) 診断量 (50~100 $\mu\text{e}$ ) 投与例, 全身残留率曲線は全て急峻に下る第 I 相と以後ゆるやかに減少する第 II 相より成る。投与後24時間において甲状腺摂取率の高いものほど全身残留率は高い。また第 II 相の生物学的半減期は甲状腺摂取率の高いものほど短いようである。また第 II 相を外挿して 0 時と交わる点の示す%は甲状腺摂取率の24時間値にほぼ等しいことが判った。2)  $^{131}\text{I}$ 治療量 (5~20mc) 投与例, 全身残留率曲線の大半は診断量

の場合と同じように二相性を示すが, 少数例に直線型あるいは最初の4~5日仲々減少しないで以後やや急激に減少する型等がみられた。後者の2つの型は甲状腺摂取率が早期に上昇する場合に多いようであった。3) 全身残留率曲線と甲状腺摂取率曲線と対比すると, 両曲線の減少が平行なもの (A 型) と平行でないもの (B 型) が, 診断量, 治療量いずれにもみられたが, A 型の方が多かった。B 型では肝に  $^{131}\text{I}$  の多くが停滞することが認められかつこの場合には  $^{131}\text{I}$  治療効果が多少悪いようであった。

## IX. 甲 状 腺

座長 脇坂行一教授 (京大)

### 64. 各種疾患における $\text{T}_3$ resin sponge uptake の検討

浅越嘉威, ○安部喬樹  
(鳥取大学・浅越内科)

甲状腺機能異常者および肝疾患, 腎炎, 糖尿病について  $^{131}\text{I}$ - $\text{T}_3$  resin sponge uptake を検討した。正常者では 26.9~37.6% の範囲で, 平均  $32.7 \pm 2.5\%$  であった。

甲状腺機能亢進症では 38.9~66.9% の範囲で, 平均  $52.2 \pm 7.6\%$  であった。甲状腺機能亢進症の治療後の成績では, 24.8~39.8% で, 平均  $33.1 \pm 4.3\%$  と正常域, もしくは機能低下の域に下がっている。

甲状腺機能低下症の成績は 17.1~26.7% の範囲で, 平均  $22.5 \pm 2.6\%$  と低値を示している。単純性甲状腺腫では, 27.2~43.2% の範囲で, 平均  $31.8 \pm 4.3\%$  であった。

甲状腺機能異常以外の疾患について検討した結果では次のごとくである。

肝疾患では, 正常者に比べて有意の差はないが広い範囲を示し, 20.2~46.2% で平均  $34.4 \pm 7.4\%$  であった。このように正常域より低値または高値をとる原因として, 一応病期の差が考えられるが, 今回のわたしたちの成績からは必ずしも一定の傾向は認められなかった。また血漿総タンパク濃度, 肝機能成績などの間にも相関関係は認められなかった。

腎炎では 27.9~41.0% の範囲で, 平均  $35.3 \pm 4.4\%$  を示した。

糖尿病においては 28.4~37.3% の範囲で, 平均  $30.4 \pm 3.0\%$  と, ほぼ正常域を示した。

### 65. 産婦人科領域の $\text{T}_3$ resin test の臨床的応用

○吉村克俊, 佐藤幸雄  
石原祥一, 安藤俊雄  
〈放射線科〉  
街風喜雄, 三宅正明  
〈産婦人科〉 (関東通信病院)

1) 健康非妊女子 (48例) の平均値は  $27.6\% \pm 3.7$  で健康男子 (31例) の平均値  $31.8\% \pm 3.1$  に比し推計学的に有意の差で低値を示す。月経周期との関係では月経期は排卵期前後に比し有意の差で低値を示す。

2) 正常妊娠 (94例) はかなり低値を示す。これを前, 中, 後の三期に分け, また月数別に検討したが第2カ月の平均値は  $24.4\% \pm 4.3$  で低いがばらつきが多く非妊時と有意の差がみられず, 第3カ月以降は有意の差で低値  $17.0 \sim 21.0$  を示す。産褥では上昇し 20~30日で正常範囲に回復する。

3) 中等以上の悪阻群 (14例) で2カ月  $27.1\% \pm 5.2$ , 3カ月  $28.8\% \pm 6.9$  であり, 3カ月については有意の差で高値を示す。

4) 切迫流産 (16例) では平均  $34.4\% \pm 5.2$  で正常妊婦と有意の差で高値を示す。しかし妊娠経続群と, 中絶群との間には有意の差がなかった。

5) 晚期妊娠中毒症 (13例) では正常妊娠後期と差がみられなかった。

6) 臍帯血 (7例) ではそれに対応する母体血に比し高値を示し, 母体の低値に影響されない。